

## 働く「かっこいい」おとなたち

日本子どもの本研究会理事  
三芳町立中央図書館司書  
代田 知子

小学校四年生のブックトーク授業で、町の豆腐屋さんが出会う不思議な物語を六話収録した『ねこじゃらしの野原』（安房直子作、菊池恭子絵、講談社、一九九五年初版）を紹介したときのこと。「このお豆腐屋さんは、とても働き者でね。毎朝、早起きをして豆腐を作り、昼は大鍋であげとあつあげと、がんばりどきを作り、夕方は自転車で売りに歩き……」と始めたところで、一人の男の子が「つまねえ人生だなあ」と言い捨てました。「もっと、ぱっと生きろよな！」と。茶々を入れられることには慣れていきますから、そこは「そう？ 私はこのお豆腐屋さんのこと好きよ。だつてね……」とかわして続け、ブックトークは無事成功したのですが、はじめに働く者を「つまねえ人生」と言う、あのことばが胸につきささりました。そしてふと思ったのです。今の子は、尊敬できる生き方をする親以外のおとなを見ていないのではないかしらと。

昔はあちこちで仕事をする職人さんを見かけたものです。太い針をぶすぶす刺して畳を張り替える畳屋さん。下書きもせず大看板の絵を描きあげる看板屋さん。店頭にいないので奥をのぞくと、汗をかいて大鍋で大豆を煮ていた豆腐屋さん。子どもの私は彼らの仕事ぶりを見るたびに、おとなってすごいと思

い、自分もいつかすごいおとなになりたいと未来に向けて夢をふくらませていました。

あの日の授業以降、私は以前にも増して子どもたちに、いろいろな分野でかっこよく働くおとなの姿が描かれている本を紹介するようになりました。最近私がよく読み聞かせているのは、食肉市場で肉牛を解体する職人の見事な腕前が披露される『きみの家にも牛がいる』（小森香折作、中川洋典絵、解放出版社、二〇〇五年初版）。小学校低学年から中学生まで引きつけるユニークで楽しいノンフィクション絵本で、社会科の授業にも活用できます。



しろた ともこ 図書館や学校、保育所などで、子どもたちに読み聞かせや語りやブックトークができる今の仕事が大好きです。

著書…『読み聞かせわくわくハンドブック』（代田知子著 一声社 二〇〇二）

DVD…『絵本・読み聞かせ おうちで実践編 1』  
2』（代田知子監修・出演 アスク 二〇〇五）